

公立大学法人札幌市立大学
2020事業年度の業務実績に関する
評価結果

令和3年8月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学の年度評価の方法

- (1) 年度評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、年度計画の次に掲げる事項（大項目）ごとの実施状況の評価を行う。
 - ① 教育
 - ② 研究
 - ③ 地域貢献
 - ④ 大学運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、中期計画の記載項目（小項目）ごとに、次に掲げるⅣ～Ⅰの4段階で評価を行う。なお、評価委員会の評価が公立大学法人による評価と異なる場合は、その理由等を示す。

Ⅳ：上回って実施している
Ⅲ：十分に実施している
Ⅱ：十分には実施していない
Ⅰ：実施していない
- (4) (3)の評価等を踏まえ、中期計画の大項目ごとに、次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。

S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
A：計画どおり進捗している（小項目のすべてⅣ又はⅢ）
B：おおむね計画どおり進捗している（Ⅳ又はⅢの小項目の割合が9割以上）
C：やや遅れている（Ⅳ又はⅢの小項目の割合が9割未満）
D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、(4)の項目別評価の結果等を踏まえ、年度計画全体について総合的な評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成 18 年に開学した札幌市立大学は、「D×N」(ディー バイ エヌ、デザインと看護の両分野の連携)による特色のある教育・研究を行い、幅広い教養と豊かな人間性を有する人材を育成するとともに、地域に根ざした公立大学として、知的資源を活用した社会貢献にも取り組んできた。

第三期(平成 30～令和 5 年度)の中期目標においては、社会的な変化に的確に対応するとともに、学術研究の高度化等に対応した職業人の育成と地域社会への積極的な貢献を目指し、実社会との関わりをより一層深め、成果を市民が実感できる大学づくりを行っていくこととしている。

2020 事業年度の業務実績としては、「項目別評価」において、教育、研究、地域貢献、大学運営の 4 項目すべてが A 評価となり、第三期中期目標期間前半を終える節目の事業年度の業務として、順調に実施したものと評価する。

(2) 評価内容

ア 教育

小項目数 13 のうち、Ⅳ評価が 6 項目、Ⅲ評価が 7 項目であり、高い水準で業務を実施しているものと認められる。

特に、企業等と連携した課題を扱う「デザイン総合実習Ⅳ」にて実践的な教育が実施されたこと(小項目 4)、看護及び助産実践能力の向上を図るためのシミュレーターを用いた教育・学習の充実(小項目 5)、デザイン学部、看護学部ともに、的確なキャリア支援を行い高い就職内定率を保持していること(小項目 9)は、高く評価できる。

その他、看護学部にて、積極的に臨地教員を活用した授業を開講していること(小項目 6)や大学院博士後期課程において、新型コロナウイルス感染症の影響の中、研究計画書審査を通して専門的な研究指導を行っていること(小項目 8)、留学生へ日本語能力向上を目的とした支援を行っていること(小項目 13)は評価できる。

イ 研究

小項目数 5 のうち、Ⅳ評価が 2 項目、Ⅲ評価が 3 項目であり、高い水準で業務を実施しているものと認められる。

特に、「デザイン総合学習Ⅳ」科目から企業等と連携した共同・受託研究へ発展させていること(小項目 16)は高く評価できる。

その他、地域特性・地域課題等に関する研究を推進していること(小項目 15)、外部資金の募集情報を周知し、科学研究費助成事業への積極的な申請を行っていること(小項目 17)は、評価できる。

ウ 地域貢献

小項目数7のうち、Ⅳ評価が4項目、Ⅲ評価が3項目であり、高い水準で業務を実施しているものと認められる。

特に、産業界及び保健・医療・福祉業界等からの地域産学連携協力依頼の受諾（小項目19）や地域企業・医療機関の情報を積極的に提供し、人材輩出の活動に積極的に取り組んだこと（小項目20）、公開講座により大学の知的資源を還元し、地元企業の競争力強化や地域の専門職の資質向上等に寄与したこと（小項目21）、看護コンソーシアムを通じた市内の病院等との連携（小項目22）により、地域産業及び地域医療への貢献を果たしていることは、高く評価できる。

その他、受託研究・共同研究や地域産学連携協力を通じ、札幌市と緊密に連携し、市の事業・施策の推進に寄与していること（小項目24）は、評価できる。

エ 大学運営

小項目数22のうち、Ⅳ評価が8項目、Ⅲ評価が14項目であり、高い水準で業務を実施しているものと認められる。

特に、同窓会との連携により在学生のキャリア教育に役立てたこと（小項目27）や図書館機能の充実を図り学生向けに図書・文献郵送サービスを実施したこと（小項目30）、遠隔形式のメリットを生かし、受講機会を確保することによりFD研修・SD研修を成果指標以上に実施できたこと（小項目35,36）、危機対策本部を開設し新型コロナウイルス感染症に対し機動的な対応を行っていること（小項目42）は、高く評価できる。

その他、各種媒体を活用した戦略的な広報活動の展開（小項目29）や一般管理費を削減し新型コロナウイルス感染症対策の整備費に充当するなど、柔軟に予算執行したこと（小項目40）、円滑に入学選抜試験を実施したこと（小項目47）は評価できる。

(3) 今後の課題

公式ウェブサイトについては、大学の特長を生かした広報活動により認知度の上昇を図るほか、地域産学連携協力による社会貢献や国際交流事業の活発化、受託・共同研究・寄附金による成果事例や感染症対策の専門的知見の発信にも資するものであり、市民や学生、受験生、寄附者、行政に広く周知され信頼される大学運営のため、アクセスを工夫し、閲覧数を増やすためのさらなる取組に大きく期待したい。

3 項目別評価

3-1 教育に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
13	0	0	7	6	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中、企業等と連携した課題を扱う「デザイン総合実習IV」が順調に実施され、少人数での実習や実践的教育を行ったことは高く評価できる。(小項目4)。
- ・看護学部、助産学専攻科において、シミュレーターを用いた教育・学習は充実していたと思われ、評価できる。また、卒業時の看護実践能力の達成度が年々高くなっており、評価できる。(小項目5)
- ・看護学部にて、臨地教員を活用した授業を29科目開講したことや道内保健機関との意見交換会の継続実施は、学生の就学意識の向上や地域連携につながるもので、高く評価できる。(小項目6)
- ・大学院博士後期課程において、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、研究計画書審査まで行っていることは評価できる。(小項目8)
- ・デザイン学部、看護学部ともに、高い就職内定率を保持していることは評価できる。(小項目9)
- ・留学生の日本語能力の向上を目的とした日本語講座を開講し、日本語講座担当教員による受講状況報告や受講者アンケートによる効果検証を行うなど、高く評価できる。(小項目13)

(イ) (ア)のほか、次に掲げる点が注目される。

- ・両学部の学生が協働し地域課題に取り組む科目である「学部連携基礎論」、「学部連携演習」を着実に実施しており、遠隔授業で学生、教員、地域間のコミュニケーションの困難さがある中、少人数グループにするなど工夫している点は評価できる。(小項目1)
- ・専門コース間の連携を実施し、デザイン、コミュニケーションなどの実践能力を養う科目である「デザイン総合実習Ⅲ」について、感染症対策を講じながら、対面授業と遠隔授業を併用して実施していることは評価できる。(小項目3)。
- ・大学院博士前期課程において、修了者がコンスタントに出ており評価できる。課題解決能力やマネジメント能力の測定に、新たな成果指標の検討がなされていると対応が示されており、今後に期待する。(小項目7)

イ 遅れている点

特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・遠隔授業を受講した学生が卒業時のアンケートに回答する時期に、教育評価アンケートの当該箇所の評価が下がることが懸念され、フォローアップを講じるなどの対応を期待する。(小項目1)
- ・卒業時に国際的な文化の理解を深めたと認識した学生の割合が低く、グローバル化の進展に対応した人材育成については大きな課題である。学生のグローバル的思考を養うため、オンラインを活用した国際交流や国際学会の聴講など、国際文化の理解につながるよう具体的な取組の検討が必要である。(小項目2)
- ・デザイン学部の実践能力向上について、実習内で行う自己評価の機会が学生の自覚の喚起につながるとともに、2020年度実施分の卒業時の教育評価アンケートの見直しが効果検証方法の改善につながることを期待する。(小項目3)
- ・授業料減免基準に該当する学生のうち、経済的理由による退学者はいなくても、アルバイトの減少など経済的困窮学生はいると思われるので、実態の把握や支援に期待したい。(小項目10)
- ・留学生のための日本語講座において、受講者アンケートの指標は達成しているが、アンケートに回答しない留学生は落ちこぼれているのではないかと懸念される。受講者アンケートの回答率を上昇させるよう期待したい。(小項目13)

3-2 研究に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評 価 結 果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
5	0	0	3	2	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・学内競争資金及び個人研究費により、地域特性や地域課題等に関する研究が、成果指標を大きく上回る件数にて実施されていることは高く評価できる。(小項目 15)
- ・「デザイン総合学習IV」の企業等と連携した取組から、社会において有用性の高い研究として、共同・受託研究へと指標を上回ってつなげることができており、高く評価できる。(小項目 16)

(イ) (ア)のほか、次に掲げる点が注目される。

- ・科学研究費助成事業への新規申請が年度計画の成果指標を達成しており、評価できる。(小項目 17)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で国際学会の中止や参加が制限されている中、国際学会・国際展示における研究成果の発表件数は成果指標に達していないものの、遠隔形式を利用するなど、可能な範囲で参加していることは評価できる。(小項目 18)

イ 遅れている点

特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・研究交流会を動画配信という形で工夫されたことは評価できるが、研究交流会がデザインと看護の両分野の連携による研究へつながるような取組に期待する。(小項目 14)

3-3 地域貢献に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評 価 結 果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
7	0	0	3	4	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・展示会の中止等、様々な機会が制限された中で、産業界及び保健・医療・福祉業界等からの地域産学連携協力依頼について、指標を上回る9件の受諾実績があったことは評価できる。(小項目 19)
- ・両学部ともに、キャリアガイダンスやインターンシップ、キャリア説明会などで積極的に地域企業・医療機関への人材輩出の活動に取り組んでおり、高く評価できる。(小項目 20)
- ・職業人向け公開講座の実施により、地元企業の競争力強化や地域の専門職の資質向上に寄与しており、高く評価する。今後もAI技術の活用など積極的な取組に期待したい。(小項目 21)。
- ・看護コンソーシアムを中心とした研修企画や意見交換などを定期的に行い、看護職のスキル向上やキャリア形成に関する課題を共有し、大学と地域病院等との連

携を行っていることは高く評価できる。課題の共有で、新たな課題を見出したことは、解決につながる意義ある活動であり、今後も積極的に取り組んでいただきたい。(小項目 22)

(イ) (ア)のほか、次に掲げる点が注目される。

- ・札幌市からの受託研究、共同研究、地域産学連携協力依頼を積極的に受け入れており、市の事業・施策の推進に貢献していることは評価できる。(小項目 24)。
- ・地域産学連携協力依頼を積極的に受け入れ、地域の振興・活性化に資する取組を行っていることは評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響で苦境にある地域経済を再興させることに大きく寄与することから、今後も積極的な取組を期待する。(小項目 25)

イ 遅れている点
特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・市民向けの公開講座は人気が高く、大学の知的資源を社会に還元し、市民が新しい知見を獲得できる生涯学習の貴重な機会となっており、今後、市民から寄せられた質問に答えるインタラクティブな講座等、遠隔形式による講座手法に新たな工夫を行い、市民の健康増進に積極的に寄与していただきたい。(小項目 23)

3-4 大学運営に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがⅣ評価又はⅢ評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評 価 結 果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
22	0	0	14	8	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・同窓会との連携は、卒業生の活躍を知ることができる貴重な機会であり、地域の企業や病院の魅力発信の場となり得ることから、高く評価できる。地域に優秀な人材が残ることで地域経済界に競争力が生まれるなど、地域経済と大学の人材育成との間に好循環が期待できるため、今後も、地域に就職した卒業生の参加の機会を増やすなど、積極的に取り組んでいただきたい。(小項目 27)
- ・公式ウェブサイトや SNS により、「D×N」を中心とする様々な取組の情報発信を行い、公式ウェブサイトへのアクセス数が、前年度比で約 10.4%増加し 326,581 件と指標を上回ったことは高く評価できる。(小項目 29)
- ・図書館の利用制限をせざるを得ない中、学生に対する図書・文献郵送サービスなど、新たな取組を実施したのは、高く評価できる。(小項目 30)
- ・FD 研修は、遠隔形式で参加しやすくなることで研修の機会が増え、実施回数、受講人数ともに、指標を上回って達成したことは評価できる。(小項目 35)
- ・新たな研修メニューを開拓するなど、SD 研修への職員派遣、受講者数は成果指標を大きく上回って達成しており、評価できる。(小項目 36)
- ・一般管理費を大きく節減し、新型コロナウイルス感染症対策の整備に充当するなど、経費を柔軟かつ有効に執行できており、評価できる。(小項目 40)
- ・成果指標を上回るリスク管理に関する研修・防災訓練の実施となっており、学内の安全管理の向上に取り組んでいる点は、評価できる。新型コロナウイルス感染症に対する機動的な対応や危機管理マニュアルの周知が図られた経緯など、貴重な経験や知見を専門知識として教えることで、学生が卒業後に、新たな感染症対策やリスク管理の知識を有する専門として、社会で活躍していただけるよう期待したい。(小項目 42)
- ・コンプライアンスに関する研修について、全教職員が 1 度以上受講するよう研修機会を確保し、実施したことは、評価できる。(小項目 45)

(イ) (ア)のほか、次に掲げる点が注目される。

- ・海外提携校との国際交流により教職員及び学生の国際交流の機会を充実させ、大学の国際化を推進する取組は、時代に合ったもので評価できる。(小項目 28)
- ・受験生や保護者、高校教員の理解を深めるため、それぞれの実情に合わせて、対面形式や遠隔形式、ビデオ上映会など様々な方法でオープンキャンパスや進学相談会を開催したことは評価できる。受験生が大学を知る機会を減らさないよう、取組のさらなる充実を期待する。(小項目 31)
- ・教員評価委員会及び同専門部会において、教員評価の項目や配点の検証・見直しが実施されており、評価できる。教員評価がどのように活用されたのか、評

価方法の見直しの結果がどのようになったのか、今後の検証も期待したい。(小項目 34)

- ・看護学部のアンケート回収率向上のため、ウェブサイトによるアンケート調査も実施しており、前年度の評価委員会意見に対して、適切に対応していることは評価できる。(小項目 38)
- ・昨今、遠隔形式での授業や会議、在宅勤務の機会が増加し、情報セキュリティに関する知識の必要性や関心の高まりがある中、情報セキュリティに関する研修を、eラーニング等で実施したことは評価できる。今後も情報基盤センターを中心に、取組をさらに充実させていただきたい。(小項目 44)
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じての試験実施で、従来にはない対策が求められた中、円滑に入学選抜試験を実施できたことは評価できる。引き続き社会の変化に対応できる組織力の高さを継続していくことを期待する。(小項目 47)

イ 遅れている点
特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・道内企業も、海外での展示会に行く機会が多くなっている。欧米の文化に慣れ、自信を持って自分の意見を相手に伝えることができるような国際的人材を育成していただくよう期待する。(小項目 28)
- ・教員の有給取得率については、業務量増により前年度の 24.6%から 2020 年度は 7.4% に大幅に低下している。本項目は重点取組であることに加え、数年来の継続課題であることから、管理者による積極的な主導や相談など、教員のワーク・ライフ・バランスの向上を図るような効果的な取組を、総合的な視点をもって実施するよう大きく期待したい。(小項目 32)
- ・「教育」項目の成果指標は「卒業時の教育評価アンケート」によっているが、認証評価を意識し学生の学習評価を適切に把握するよう、成果指標とアンケート項目の整合性を精査し、また併せて、両学部ともにアンケート回収率の改善のための取組を引き続き実施することが期待される。(小項目 38)
- ・今後、建物の老朽化が進み、安全確保のための費用が増えると思われ、例えばボランティア組織の活用による維持管理の手法の導入なども考慮した上で、長期保全の予算計画を検討する必要がある。また、市民や卒業生から寄附金を募る「寄附基金制度」の整備・拡充を図り、学生の経済支援を充実させるとともに、キャンパスの整備・維持管理に資することを期待したい。(小項目 41)
- ・ゼロカーボン社会の実現は明確な国家目標となり、今後、再生可能エネルギーの利用や省エネルギー対策への取組が重要となる。大学においてもデザイン力を発揮

し、ゼロカーボン社会の実現に向けた新たな計画を創造していただきたい。(小項目 43)

- ・ダイバーシティ、ジェンダー平等やキャンパスハラスメント、最近ではワクチンハラスメントなど、教育・研究・地域貢献・大学運営のあらゆる場面において、コンプライアンスへの意識を浸透させることは重要で、アクセスや相談をしやすい環境の整備を行うなど、教育機関として率先して社会の模範となるような取組に期待する。(小項目 45)